

政策調整会議の概要

開催日 平成 19 年 11 月 1 日 (木)

◎項 目

1 各部署等の主要な取り組みについて【各部署等】

◎内 容

1 各部署等の主要な取り組みについて【各部署等】

各部署等から、19 年 10 月の主要な取り組み及び 19 年 11 月の主要な取り組み予定について、各部署の主要な取り組み一覧表を配布のうえ、報告を行い情報共有を図った。

【主な意見】

- ・ 報告のあった全国学力・学習状況調査結果の関係で、都道府県別の結果の発表はあったが、県内の市町村別の結果は発表をしないのか。
→ 発表の予定はない。都道府県だけである。
- ・ 都道府県によっては、市町村別に発表するところもあるみたいだが、それはどうして発表をしないのか。
→ 市町村による隔たりをなくすといったいろいろな考えがあって発表はしない。また、文部科学省でそんな市町村別のデータはつくっていない。
- ・ 今回の学力テストの結果について、私の印象としては、勉強不足、時間不足にどう対応するのか、学校だけでなく、地域、家庭も考えないといけないと思う。また、一方で教育問題というのは、多くの方からさまざまな意見が出てくる分野なので、県としての意見をきちんと表明することも必要（副知事）。
- ・ やはり、全国学力テストの結果は、市町村別を発表して、私のところの市町村は全国に比べてこうなんだということも情報提供をして、これをもとにみんなで議論して協力してやっていくような形を取らないといけないのではないか。
- ・ 今年、高知県のアウトソーシングの取り組みが日経新聞社賞を受賞した。高知県のアウトソーシングが単にコストのスリム化だけではなく、テレワークなども使いながら地域の活性化につながるような取り組みをしていることが、よそとは違うということで全国的な評価も出始めたということである（副知事）。
- ・ また、本県のダウンサイジング（システム移行高知県方式特許）といった、全国的には結構高い評価を得るものがあるので、大いに自信を持ってやってもらえるかと思う。中ではいろいろ何をやっているのかと言われることもあるが、外からはかなりそういうふうに見える人は見えてるというのがあるというのは、意を強くして持つてもらえればと思う（副知事）。
- ・ 今回の地方再生モデルプロジェクトに関する国に対する説明の際のように、国に対していろんなところで議論をする機会があれば、高知県の実情なり何なりを大いに訴えかけていく。それから情報発信していくということは必要だと思う（副知事）。
- ・ 雇用対策では、今は非常に重要な問題になっているが、国の今までの労働政策があって、県の労働政策というのはあまり確立されたものがなかった。そういう中で、実は試行錯誤の段階だと思う。政策を立案するというのは、バランスをみながら、たくさんあるツールの中でどれを取るんだ。どの部分を重点化するんだというのをそれぞれの部局で考えていくこと。来年度に向けて政策立案の方法というのを少し意識しながら、特にこのメンバーは考えてもらいたいと思う（副知事）。

- すでに、部局連携官にどうすればよいか考えてもらっているが、一部の課から、原油高に伴うガソリン価格や重油価格の高騰により、県内のいろんなところに影響が出ているという話がある。それぞれの部局ごとに原油高騰に対しての問題意識というのをもちながら、情報を集めて、県として何か打てる対策があるのか考えないといけないと思う。については、それぞれの部局ごとに、どういう政策をとるべきかというのを考えてほしい（副知事）。